

## 令和6年度 自己評価結果公表シート

令和7年5月30日 光の園幼稚園

### 1、本園の教育目標

- ・ 生きる力の基礎を養うため、健やかな身体と豊かな心情を育てる
- ・ 「勇気と感動とやさしさと」をスローガンに、お話の世界に遊び、楽しく表現し、輝くような心と感性に満ちた創造力を育む
- ・ 自分の心で感じ、自分の頭で考え、自分の体を使って様々に表出（表現・行動）する
- ・ 様々なもの・こと・ひととの関わりの中で「自分の世界」を広げていく（令和6年度）

#### ◎ 取り組みに際して念頭においていること

- ・ 五感を使って自然に親しむ
- ・ 自分の足で立つ（心と体に軸を持つ）
- ・ お話の世界を楽しむ
- ・ 自分の思いやイメージを自由に表現する素地を作る
- ・ 人とかかわりを大切にして人への信頼感をもつ
- ・ 子どもたちの思いやつぶやきを受け取り保育に活かす

### 2、令和6年度重点的に取り組む目標や計画

- ①いかにして個と集団の育ちの保障をしていくか
- ②子どもの姿ベースで保育を組み立てる（保育者の振り返りの視点と手立てとしての活動内容をどう深めていくか）
- ③開かれた園づくり（方法の模索と発信内容）

### 3、評価項目および取組状況

評価項目	取組状況
①いかにして個と集団の育ちの保障をしていくか	今年度より生活面が主になる時間帯（朝の自由遊びまで、給食後）に異年齢保育を取り入れた。その中で様々な保育者や友だちと多様な遊びに触れることができ、個々にやってみたいことを見つけ、追究しようとする姿が出てきた。また、異年齢クラスでもそのクラスの一員としてどう振る舞うべきか、自分にできることは何か、今何が必要かを考える機会があり、そういった意味で集団の中の自分のあり方を考え身につけていく姿も見られた。一方、同年齢クラスでの活動時間も保障しているので、クラスとして取り組む活動の中でお互いを認め合いながらそれぞれの思いを受け止め「もっとこうかもしれない」と一人ではたどり着けない面白さや深みを味わう場面も見られた。そして今年度は3歳児が2クラス編成となったため、保育室を一つ開けることができた。その保育室を気持ちの切り替え時や集団に入りにくい時に利用するお部屋として活用することでクラス集

	団にも個人にもよい方向に育ちが見られた。
②子どもの姿ベースで保育を組み立てる（保育者の振り返りの視点と手立てとしての活動内容をどう深めていくか）	今年度入職した保育者も多かったため、子どもの姿や育ちをどう捉えるのか、園の理念や年間のねらいに沿った保育内容がどのようなものかを理解することから始まった。振り返りの視点から手だてにつなげる週日案の様式はできていたもののその内容や書き方を理解し、実際に保育を組み立てるのは時間を要することであり、今年度理解できたことを来年度に活かして、今の子どもたちに必要な活動を見出していきたいと思っている。
③開かれた園づくり（方法の模索と発信内容）	保育参加やキンダーカウンセラーによる茶話会などへの参加希望者は減っていく傾向にあり、園の教育保育についての保護者理解が停滞しているように感じる。対面で保護者と話のできるクラス懇談や個人懇談などの機会をこちらから発信する機会としても捉え、内容や方法を引き続き模索していきたい。

#### 4、令和6年度の目標や計画の総合的な評価

今年度からの新たな取り組みに子どもたちも保育者も初めは戸惑い、課題も様々出てきたが、振り返り新たな手立てを講じることで子ども個々の育ちと集団としての育ちが保障できる形が見えてきた。また、いかに子どもの育ちの積み重ねが大切か、ということも改めて深く感じたため、今子どもたちに必要なことは何かを見極めることでしっかりと基礎から子どもの育ちを積んでいけるよう保育者の子どもの見取りや保育の組み立てのスキルアップを図りたい。また、保護者とも足並みを揃えて子どもの育ちを支えていきたいところであるが、共感できる部分もある一方で発信力の乏しさも感じている。

#### 5、今後取り組むべき課題

課題	具体的な取り組み方法
①異年齢保育2年目として育ちをどう積み上げていくか	今年度新たに取り組んだことである程度子どもの育ちが見えてきたが、それに甘んずることなく新たな土台の上に育ちを積み上げていく気持ちを持って、子どもの育ちの見取りや活動の次の展開を考えていきたい。
②子どもの姿と園の理念に沿った教育保育内容を考える	保育者同士の話し合いは日常的に行われるようになってきているが、その内容を咀嚼し、記録として残し、次の活動につなげていくことが課題として残っている。個別あるいは保育者全体として立ち止まって精査する機会を定期的に設けたい。
③園の教育保育内容の理解の推進	子どもの活動内容だけでなく活動のねらいや意味を伝える方法や機会をどう保障するか。在園児の保護者のみならず未就園児の保護者への発信も含めて考える。

#### 6、学校関係者の評価

特に指摘すべき点はなく、妥当であると認められる。